

インタビュー

森・川・海をつなぐ植林活動をつづけて

～ 畠山重篤さんに聞く～

2022年6月6日（月）

（於）気仙沼プラザホテルロビー

聞き手 本誌編集部



子どものころの読書

—— 本日は「森は海の恋人」の植林活動をしている牡蠣漁師の畠山重篤さんに気仙沼を訪ねて、お話を伺いました。

畠山さんは森と川と海の関係にいち早く気がつき、気仙沼湾の豊かな海を守るために、湾に注ぐ大川の上流の室根山に落葉広葉樹を植える活動を始めました。一九八九年（平成元年）から三〇年以上も続く活動は、日本ばかりか世界中に広がっています。また、気仙沼を舞台にしたテレビドラマ「おかえりモネ」の主人公百音の祖父のモデルにもなりました。

まずは宮城県気仙沼市で育った子ども時代のことをお話してくださいませか。特に宮沢賢治など、文学とのかかわりを。

畠山 本は貴重なものでした。その中でも両親、祖父母は賢治に関心があったので、よく縁側で読んでもらいました。

—— 覚えているのは？

畠山 「風の又三郎」です。やはり東北弁でいろんな表現があるから。風の音とか、擬音というのですか、なじみがあるので、そういうことが年を経ても心に残っています。

何年前だろう、花巻市から「イーハト